

このコーナーでは長年、市内の小・中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

稲刈り

文 蛭田光城
ひるたみつぎ

絵 野上和彦

夏休みも終わりに近づき、稲も色づき始めました。

「やあ成男君、よく来てくれたね。そろそろ刈れるようになったんで、昨日、[※]おだを組んでおいたよ。じゃあポツポツ始めるか。」

太郎兵衛さんは、たばこをもみ消して、わら束を腰へしぱりつけました。

はじめのうちは、刈った稲を畦に置いて、腰に付けたわらで手際よく束ねました。

「どうだ。成男君も刈ってみるか？」

「うん。やってみる。教えてね。」

鎌を借りて田へ入りました。

「よいしょ。よいしょ。」

「ちよつとかしてみな。こういうふうに、鎌を引つ張るだけでなく、右の方へ廻してひくようにしてねこんなふうにな。」

太郎兵衛さんは、ぼくの手に、手を添えて、二、三度やってくれました。

終わると刈った稲をおだに掛けていきました。束を二つに分けて掛けるのです。

「成男君、すまないけど、田の中の束を運んでくれないか？」

「ああいいよ。」

ぼくはすぐ田の中に入って、稲束を持ち上げました。束はずしりと重くて、それに田の中へ足がめりこむので、右と左に「束ずつしか持てませんでした。太郎兵衛さんはこれを見て、

「そんなに無理をしなくていいよ。両手で一束持てばいいんだよ。」

続けて言いました。

「百姓はな、一日中同じ仕事を繰り返しているんだよ。だからな、一日続けてやれるくらいの力でやるんだよ。おじいさんも、若い時は無理に力を出して、一日持たなかったよ。」

と言ってアハハと笑いました。

※【おだ】

水田脇に刈り取った稲を干すためのもの。台風や稲の重さにまけないように、しっかりと縄で結びます。

編集後記

西中学校陸上競技部女子リレーチームが、8月20日から宮城県で開催される全日本中学校陸上競技選手権大会に昨年に引き続き今年も出場します。しかも今年は優勝候補筆頭とのこと(詳細は4ページ)。決勝が行われる23日にはNHK教育テレビで中継もあるようですので、成田の代表選手にぜひ注目を。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

